

盲ろうのお子さんの ご家族・支援者の方々へ



乳幼児期の関わりで大切にしたいこと

- ◆活動と一緒に楽しみましょう
- ◆障害の状態を固定的にとらえずに働きかけていきましょう
- ◆生活リズムを整えましょう
- ◆さまざまな感覚に働きかけましょう
- ◆子どもからの発信につながるような関わりを大切にしましょう

全国盲ろう教育研究会

URL : <https://www.re-deafblind.net/>

E-mail : mouroujimukyoku@gmail.com



◆活動を一緒に楽しみましょう

一緒に楽しむ活動をしながら、お子さんの反応や表情からどんなことが好きなのか、楽しんでいるのか探っていきましょう！

くすぐること、歌、光って音がするおもちゃなど、お子さんが楽しめるようなことを一緒に楽しんでいます！



◆障害の状態を固定的にとらえずに働きかけていきましょう

乳幼児期の検査で、視覚や聴覚の活用が難しいと診断されても、お子さんが成長・発達していく中で、視覚や聴覚の活用が図れるケースもあります。

日々の生活の中で、声をかけ、音を聴かせたり、キラキラした物やはっきりした色遣いの物を見せたりしていきましょう。



◆生活リズムを整えましょう

できるだけ日々の生活リズムを整えて、起床、食事、入浴、就寝といった毎日の生活を大事にしていきましょう。毎日の繰り返しの中で、見通しが生まれてきます。



◆さまざまな感覚に働きかけていきましょう

たとえば、
お風呂に入ることを
伝えるとき



- ・声をかける（聴覚）
- ・身体をやさしくこする（触覚）
- ・ボディタオルを見せる（視覚）
- ・石鹸を見せて、においがかがせる（視覚・臭覚）

たとえば、
食事をすることを
伝えるとき

- ・声をかける（聴覚）
- ・エプロンをつける（視覚・触覚）
- ・口に触る（触覚）
- ・スプーンを見せて、触らせる（視覚・臭覚）
- ・おいしそうな匂いがかがせる（臭覚）

◆子どもからの発信につながるような関わりを大切にしましょう

子どもが、関わる大人からの働きかけを理解する「受信」と子どもが自分の思いやねがい等を伝える「発信」は、相互に関係し合いながら、獲得されていきます。たとえば、食事場面での受信が確実になってくると、子ども自身が口を開けて、食べ物を要求する、反対に食事を終わりにしたいときは、口をそらしたり、エプロンを外そうとしたりする様子が見られてきます。

このように、日々の繰り返しの中で、活動で使用する実物やその一部を使いながら、子どもと関わる大人の間で「分かり合う」ことを増やしていくことが可能になってきます。

また、手で身体をこするといった入浴の予告を、子どもが「お風呂に入りたい」という要求として用いるなど、活動・動作の中での自然な動きを取り入れた身振りサインを使っでの繰り返しのやりとりから、受信が発信へとつながり、双方向でのコミュニケーションにつながっていきます。

